

2017 年度 入学 試験 問題

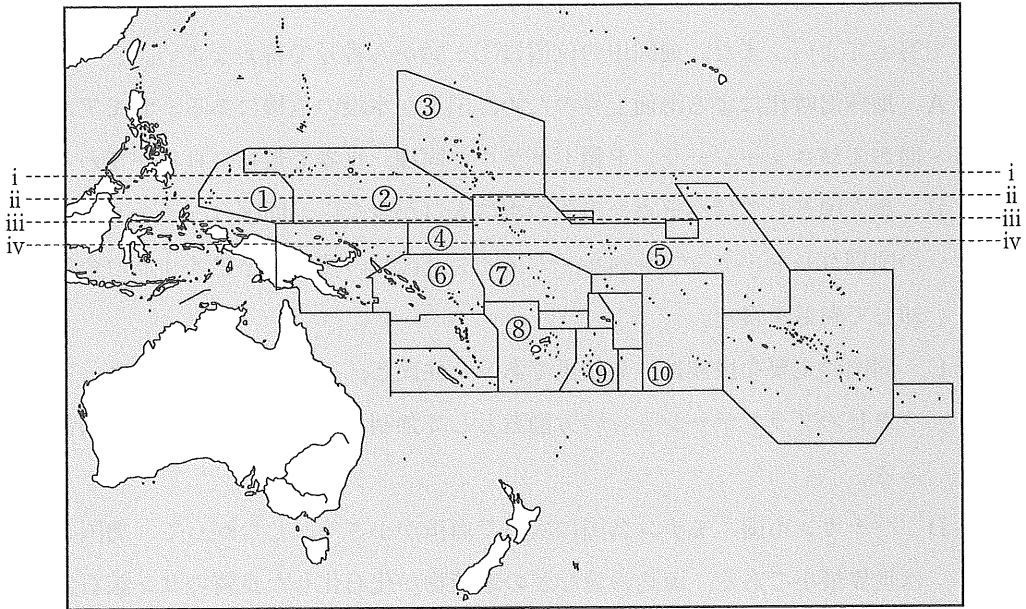
地 理 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙のみです。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。

I 次の地図と文章はオセアニアに関するものである。以下の問1～問3に答えなさい。
 なお、縮尺の都合により、地図中にすべての島が表記されているわけではない。また、
 地図中の実線は、それぞれの島国や自治領の境を示しているが、海上に示される境界
 線は、はっきりと定まっていないことも多い。下記の地図では、島々がどの国や自
 治領に属するかをわかりやすく示すために便宜上引かれた境界線を用いている。

(30点)



オセアニアは、オーストラリア大陸に加えて、太平洋上に点在する多くの島々から
 構成されている。オセアニアの島々は、ニュージーランドを含む（ 1 ）、ニュー
 ギニアを含む（ 2 ）、そしてミクロネシアの3つの地域に分けられる。（ 1 ）
 は北のハワイ諸島、東の（ 3 ）島、そして南のニュージーランドで結ばれる三角
 地域に当たる。ニュージーランドの大部分は（ 4 ）気候であり、北島と南島のう
 ち、（ 5 ）島では降水量が多くて温暖であり、酪農が比較的盛んである。また、
 ニューギニア島は、東経141度を境に、島の西半部がインドネシア領で、東半部がパ
 パニューギニアである。このような直線的国境を数理的国境あるいは（ 6 ）的
 国境という。パプアニューギニアへの最大の援助国である（ 7 ）とは、（ 8 ）
 海峡を挟んで近接している。

問1 地図中の線 i ~ iv のうち、赤道に最も近い線を記号で答えなさい。

問2 文章中の空欄 (1) ~ (8) に入る最も適切な語句を答えなさい。ただし、同じ記号の空欄には同じ語句が入る。

問3 次の A ~ F は、地図中に含まれる国をそれぞれ説明した文章である。それぞれの文章に対応する国の、国名と地図中の位置を答えなさい。国名は一般的な名称で答えてよい。また、地図中の位置は①~⑩から番号で答えなさい。

A 地球温暖化による海面上昇のため、国土が水没の危機にある。サモアの夏時間およびニュージーランド領トケラウと同様、世界で最初に日付が変わる。

B 独立国としてはバチカン市国の次に人口が少ない。同国は、インターネットの国別コード・トップレベル・ドメイン「tv」の使用権をアメリカの企業に売却して利益を得た。

C 同国の主要な民族は、先住民であった住民と、宗主国イギリスによってサトウキビのプランテーションの労働者として強制入植させられたインド系住民である。

D バチカン市国、モナコ公国に次いで面積が小さく、したがって、島国としては世界最小である。海鳥の糞などの堆積物が化石化した良質のリン鉱石の輸出によって高い生活水準を維持してきたが、現在では、そのリン鉱石がほぼ枯渇して諸外国からの援助に頼っている。

E 同国に属するビキニ環礁において、アメリカ合衆国が多数の核実験や水爆実験を行った。そのうち 1954 年に第五福竜丸など多くの漁船の乗組員が被ばくした。

F 1773 年にこの地に上陸したイギリスの探検家の名を取って同国が名づけられた。同国は、19 世紀後半にイギリスの保護領となり、また 1901 年にニュージーランドの属領となったが、2001 年にニュージーランドとの共同声明で、主権独立国家として外交を行うと表明し、日本も 2011 年に同国を国家として承認した。

II 次の文章と表はビールに関するものである。以下の問1～問3に答えなさい。なお、文章中の(A)～(E)は、表1の(A)～(E)にそれぞれ対応している。(20点)

ビールは、大麦、ホップ、水などを主な原料とするアルコール飲料である。現在、世界中でさまざまなビールが製造されている。

表1によれば、中国が、人口規模の大きさ、経済発展の勢い、国民の所得向上等を反映して、ビールの生産量と消費量では第1位で、いずれも世界全体の約4分の1を占めている。この中国に、アメリカ合衆国とブラジルが続く。さらに、国土面積が約35万平方キロメートル、人口が8,000万人を超える(A)は、ビールの生産量が第4位、消費量が第5位で続いている。主原料の大麦とホップの生産量は、ともに世界第2位である。同国南東部の中心都市であり、北緯48度近くに位置し、1972年に夏季オリンピックを開き、ビールの産地としても名高い都市である(ア)の北側に広がるハラタウ地方は、品質の高いホップを大量に生産していることで有名である。

ビール生産量で世界第5位、消費で第4位の(B)は、大麦生産では世界第1位である。同国には、東経60度あたりで南北に縦断する古期造山帯の山脈がある。大麦の多くは、そこから西南側に広がる、表層に腐植が集積した肥沃な黒色土、いわゆる(イ)とよばれる土壌が分布する地域で栽培されている。

(C)、日本、イギリスが、ビールの生産量と消費量の両方で、それぞれ世界第6位、7位、8位である。人口が日本とほぼ同程度の規模であり、1人当たり所得が10,000米ドル前後の(C)は、ビールの生産量も需要量も大きい。(C)の首都は、1968年に夏季オリンピックが開催されたが、(1)首都のみでみると900万人前後、周辺地域を含む都市圏としてみると2,000万人前後の人口を抱える大きな都市である。

ビールの輸出量に目を移すと、(C)が第1位である。同国のビールは人気があり、多くの国に向けて輸出されている。輸出量で第2位のオランダには、世界でも馴染み深いブランドの1つを生産しているビール・メーカーがあるが、この企業は同国の憲法上の首都である(ウ)に本社を置いている。

輸出量で第3位から7位までは、(A)、(D)、イギリス、フランス、アメリカ合衆国が占めている。国土面積が約3万1,000平方キロメートル、人口が1,100

万人程度の（ D ）は、伝統とブランド力があり、品質が高く、自然発酵によるラビックビールをはじめとする多様なビールを生産し、世界へ向けて輸出している。（ D ）の首都は、NATO（北大西洋条約機構）の本部も置かれている国際都市である。

アメリカ合衆国では、札幌とほぼ同じ緯度に位置するミシガン湖西岸の都市、（エ）がビールの生産および輸出の拠点として有名である。この（エ）、そして（ア）と札幌は、世界の3大ビール産地ともよばれる。

輸出量で第8位の（ E ）は、人口が1,000万人を若干上回る程度の規模のため、国全体の消費量では上位にいないものの、1人当たり消費量では世界トップである。同国西側のボヘミア地方では、高品質のホップを大量に生産している。19世紀の半ばごろ、同国のプルゼニ地方でピルスナービールの醸造が始まったといわれ、醸造の工業化にともなって世界中に普及していった。このピルスナービールは、現在、世界でもっとも製造され、消費されているビールになっている。

表1 ビールの生産量、消費量、輸出量（2013年）

生産量			消費量			輸出量		
国名	(1,000キロリットル)	割合(%)	国名	(1,000キロリットル)	割合(%)	国名	(1,000トン)	割合(%)
中国	46,352	24.1	中国	46,312	24.5	(C)	2,344	16.8
アメリカ合衆国	22,512	11.7	アメリカ合衆国	24,050	12.7	オランダ	1,764	12.6
ブラジル	13,473	7.0	ブラジル	12,520	6.6	(A)	1,509	10.8
(A)	9,437	4.9	(B)	10,062	5.3	(D)	1,280	9.2
(B)	8,318	4.3	(A)	8,429	4.5	イギリス	671	4.8
(C)	8,200	4.3	(C)	6,739	3.6	フランス	548	3.9
日本	5,532	2.9	日本	5,489	2.9	アメリカ合衆国	497	3.6
イギリス	4,196	2.2	イギリス	4,244	2.2	(E)	368	2.6
世界合計	192,047	100.0	世界合計	188,814	100.0	世界合計	13,962	100.0

注：日本の生産量と消費量には、ビールに加えて、発泡酒、新ジャンルが含まれている。

輸出量は、大麦を原料にしたビールに分類されるものしか含まれていない。

資料：生産量はキリンビール大学レポートの「世界主要国のビール生産量」, http://www.kirin.co.jp/company/news/2015/0810_01.html (2016年5月18日取得)。

消費量はキリンビール大学レポートの「世界主要国のビール消費量」, http://www.kirin.co.jp/company/news/2015/1224_01.html (2016年5月18日取得)。

輸出量はFAOのFAOSTAT, <http://faostat3.fao.org/download/T/TP/E> (2016年5月18日取得)。

問1 文章中および表1の空欄（ A ）～（ E ）に入る最も適切な国名を答えなさい。ただし、同じ記号の空欄には同じ国名が入る。

問2 文章中の空欄（ ア ）～（ エ ）に入る最も適切な語句をカタカナで答えなさい。ただし、同じ記号の空欄には同じ語句が入る。

問3 文章中の下線(1)で示した（ C ）の首都は、人口規模の面でも、政治、経済、文化等の機能の面でも、国内で第2位以下の人口を持つ諸都市を大きく引き離している。このように国内で人口規模が圧倒的に大きく、諸機能が集中している大都市のことを一般的に何とよんでいるか、最も適切な用語をカタカナで答えなさい。

Ⅲ 次の文章と表は貿易に関するものである。以下の問1～問4に答えなさい。

(30点)

第2次世界大戦前には先進国による保護貿易政策が世界経済の停滞につながったことから、戦後は自由貿易が進められた。(①)は、関税や輸入制限などの貿易障壁を減らし、自由貿易を促進するために1947年に締結された協定である。この協定のもとで多角的貿易交渉が行われ、1986年に始まった(ア)とよばれる多角的貿易交渉では農業分野が本格的に議論され、1993年に関税の引き下げや貿易障壁の撤廃などが合意された。

その後、(①)を発展的に解消して1995年に設立された(②)では、物品だけではなく、サービスや知的財産権、投資など幅広い分野で国際ルールを策定する交渉が行われている。貿易自由化が進んで輸入が急増し、自国産業が重大な影響を受ける場合、関税引き上げや数量制限を行う(イ)があるものの、全般的なルール策定をめぐって、⁽¹⁾先進国と途上国との対立が激しくなった。

そこで、(②)のような多国間ではなく、二国間または少数国間での貿易交渉が進められている。これは物品の関税やサービス貿易の障壁等を削減する協定であり、一般的には(③)とよばれている。こうした協定が全世界にわたって締結されており、その先進的な事例としてアメリカ合衆国・カナダ・メキシコ間で1994年に発効した(④)や、アルゼンチン・ブラジル・パラグアイ・ウルグアイ等の南米諸国で1995年に発効した(⑤)がある。

さらに、近年ではシンガポール、ブルネイ、ニュージーランド、チリを原加盟国とする(⑥)の交渉が2006年から始まり、物品やサービス、電子商取引、投資など、合計21の分野で包括的かつ高い水準の交渉が行われている。この交渉には原加盟国、アメリカ合衆国、日本、オーストラリアなどの計(ウ)か国が交渉に参加し、2015年10月に大筋合意に達した。

他方、現在のグローバルな国際貿易の仕組みは、経済的・社会的に立場の弱い途上国の生産者や労働者の貧困を拡大しているという見方がある。1964年に設置された国連機関の(⑦)は、途上国の開発や貧困削減等のために貿易と投資を利用できるようにすることを目指している。また、市民レベルでは途上国の原料や生産物を適

正価格で売買する（エ）とよばれる運動が取り組まれている。

問1 文章中の（①）～（⑦）に入る語句を欧文略称で答えなさい。ただし、同じ数字には同じ語句が入る。

問2 文章中の（ア）、（イ）、（エ）には最も適当な語句をカタカナで、（ウ）には数値をそれぞれ答えなさい。

問3 下線部(1)について、途上国は一次産品、先進国は工業製品を生産し、両者が相互に補完し合う国際分業の形態を答えなさい。

問4 表2は貿易額の上位8か国（日本、中国、韓国、アメリカ合衆国、イギリス、オランダ、ドイツ、フランス）の輸出入の状況を示したものである。これらのうち、日本、アメリカ合衆国、オランダに該当するものをa～hの記号で答えなさい。

表2 貿易額上位8か国の輸出入の状況（2014年）

国名	貿易額 (10億ドル)	輸出額 (10億ドル)	構成割合 (%)			上位輸出品 (1位, 2位, 3位)	輸入額 (10億ドル)	構成割合 (%)			上位輸入品 (1位, 2位, 3位)
			食料品	原材料・燃料	工業製品			食料品	原材料・燃料	工業製品	
a	4,303	2,342	2.7	3.2	94.0	機械類, 衣類, 繊維・織物	1,960	5.4	30.2	60.2	機械類, 原油, 精密機械
b	4,034	1,623	9.2	14.6	65.1	機械類, 自動車, 石油製品	2,410	5.5	17.9	72.9	機械類, 自動車, 原油
c	2,723	1,505	5.6	6.1	82.7	機械類, 自動車, 医薬品	1,218	7.7	18.4	68.3	機械類, 自動車, 原油
d	1,502	690	0.7	5.9	87.5	機械類, 自動車, 精密機械	812	8.4	40.5	49.6	機械類, 原油, 液化天然ガス
e	1,228	567	12.7	7.1	77.6	機械類, 航空機, 自動車	661	9.2	18.3	72.4	機械類, 自動車, 原油
f	1,142	478	6.3	15.0	68.6	機械類, 自動車, 金 (非貨幣用)	664	9.7	15.5	70.4	機械類, 自動車, 原油
g	1,098	573	1.1	12.6	86.0	機械類*, 自動車*, 石油製品*	526	4.9	43.8	51.0	機械類*, 原油*, 液化天然ガス*
h	1,081	574	15.6	22.2	60.9	機械類, 石油製品, 化学薬品	507	12.3	25.4	60.1	機械類, 原油, 石油製品

資料：『データブック・オブ・ザ・ワールド 2016年版』二宮書店

注：*は2013年のデータに基づく。

IV 次の文章と表は水産業と水産資源に関するものである。以下の問1と問2に答えなさい。なお、文章中の(A)～(C)は、表3の(A)～(C)にそれぞれ対応している。(20点)

日本の近海が含まれる(ア)漁場は世界最大の漁獲高を誇っている。この背景には地形と海流の影響がある。地形の影響には、(イ)とよばれる大陸の周縁に分布するきわめて緩傾斜の海底が広く分布していることや、(イ)の中で水深が特に浅い部分である(ウ)の存在が挙げられる。また、海流の影響として、寒流と暖流が接する(エ)で魚のエサとなるプランクトンが多く発生し好漁場となっている。

したがって、日本の魚介類の自給率は1964年のピーク時には113%もあった。しかし、1970年代に入ると、多くの国が水産資源を保護するために自国の沿岸から200海里までを(オ)として設定したため、日本の遠洋漁業が衰退し、(カ)漁業が拡大した。

その後、円高の影響で世界各地からの水産物の輸入価格が相対的に安価になったことも一因となり、1980年代後半から(カ)漁業も衰退し、水産物の輸入量が増えている。

そこで、表3で日本のエビ、カツオ・マグロ類、サケ・マスの魚種別輸入先の上位国/地域に着目してみよう。

エビの輸入先第3位の(A)と日本との間で、2011年に経済連携協定が発効した。(A)では、経済連携協定によってエビの輸入関税が撤廃されたことにより、日本への輸出増加が期待されていた。しかし、2012年に日本によるエビの輸入検査の強化によって、日本の輸入量が減少し同国から改善要望が出された。

カツオ・マグロ類の輸入先第2位の(B)では、内水面漁業も盛んであり、同国からのウナギの輸入量は第1位である。

日本の水産会社の技術によって養殖に成功した(C)からのサケ・マスの輸入量は、輸入金額の過半数を超えている。同国沿岸の南東太平洋漁場は、(キ)海流の影響で世界的なアンチョビーの好漁場でもある。

表3 日本の魚種別輸入先上位3か国/地域（2015年，金額ベース）

エビ		カツオ・マグロ類		サケ・マス	
国/地域	輸入先割合 (%)	国/地域	輸入先割合 (%)	国/地域	輸入先割合 (%)
ベトナム	21.1	台湾	20.0	(C)	56.4
インドネシア	17.5	(B)	12.0	ノルウェー	22.0
(A)	17.0	韓国	9.9	ロシア	11.1

資料：農林水産省，2016年，『農林水産物輸出入概況（2015年）』。

問1 文章中および表3の空欄（ A ）～（ C ）に入る国名を答えなさい。なお，同じ記号には同じ国名が入る。

問2 文章中の空欄（ ア ）～（ キ ）に入る最も適切な語句を記入しなさい。なお，同じ記号には同じ語句が入る。

